

委員長：小西靖彦，副委員長：高橋誠，中川晋， 委員：青松棟吉，倉島庸，土屋静馬

*1 Medical Specialist Education Committee

*2 Susumu Nakagawa

9. 生涯教育委員会・生涯教育部会^{*1}

長谷川 仁志^{*2}（部会長・秋田大学医学教育学講座）

日本における医師の生涯教育は、1)『卒前教育からシームレスに医師免許の質である基本的な診療の実践力を保証する役割を担う日本医師会による生涯教育制度』等の部分と、2)『専門性の質保証を担う専門医機構による新専門医制度』の2つに分類できる。これまでの日本の状況は、必修単位化された2)の取得・更新がメインであり、プロフェッショナルオートノミーとしての1)については、目標の設定、内容、受講率など課題が多かったが、近年、卒前教育と一貫した展開が検討されている。

生涯教育部会では、卒前・卒後一貫した医師免許の質保証の観点から、日本の国情に合った生涯教育の今後の在り方についての各分野の課題を抽出し、次世代に向けて具体的な検討を開始した。はじめに、生涯教育におけるWFMEのグローバルスタンダードの概要と、国内外の現状の情報共有を行い、今後の改革を進めるための実現可能な戦略を検討した。

医師免許の質保証としての今後の方向づけを実現していくために、次の内容を検討している。

- ①分野ごとの医師免許の質保証に関するニーズや医師のキャリアステージごとのニーズなど現状把握

- ②しっかり学びたい方へ教育環境整備・評価による質保証：デジタル化推進
- ③専門医制度との連携強化
- ④ウィズコロナ感染症時代のさらなるグローバル化対応
- ⑤多職種連携教育力の重視：個人の質保証からチーム力向上を意識したチームビルディング・ノンテクニカルスキル教育重視への意識改革

卒前教育と同様に生涯教育のこれまでの経緯は、どちらかという医療のニーズを追従する形で展開してきている。今後は、卒前教育と一貫して医師免許の質を保証することを第一とするとともに、将来の医療を先取りした展開を推進する意識も重要である。そのために、上記の①～④を個人からチーム力向上を意識した⑤への展開も含んだ教育を連鎖させるメッセージが重要と考えられ議論が進められている。確実に改革を進めるためには、新型コロナウイルス感染症対応で一気に進んだ教育のデジタル化が鍵となる。

委員長：小西靖彦 アドバイザー：瀬尾宏美
部会委員：上原 孝紀，押尾貴之，小田康友，小松弘幸，竹村洋典，永田康浩，前野哲博

*1 Continuing Professional Development Committee / Continuing Professional Development Subcommittee

*2 Hitoshi Hasegawa